

第 1 回委員会での主な意見と対応方針

No.	項目	意見	事務局の回答（第 1 回委員会）	対応方針
1	屋内展示・屋外展示の基本設計の取りまとめ状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内展示は、展示構成を見ると、まだ内容が盛りだくさんのように感じる。作業部会等を通じて更に内容の精査をお願いすることになると思われる。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに展示構成の具体的な精査を進め、作業部会等で議論させていただきたい。
2	展示構成・ゾーニング（案）について	<ul style="list-style-type: none"> ・3 階のゾーニング図から基本設計の時にあった「みえつ空中散歩」がなくなっている。 ・「みえつ空中散歩」は、三重津海軍所跡を真上から俯瞰できる体験型のコンテンツで、かなり良いコンテンツになり得ると思っていたが、再検討はできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みえつ空中散歩」をなくしたのは、1 階の映像ホールや 3 階の東西テラス等で提供するコンテンツで代替ができるのではないかと考えたため。映像や端末等で、「みえつ空中散歩」に代わる体験ができるように検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 階の映像ホールで提供する映像や共通端末等で、「みえつ空中散歩」に代わる体験ができるように組み立てを考えたい。
3		<ul style="list-style-type: none"> ・俯瞰的な動画はありそうでない。かなり効果的だと思う。ただ、配置している場所は検討する必要がある。 ・「みえつ空中散歩」は現時点では要検討項目として残せればと思う。 		

No.	項目	意見	事務局の回答（第1回委員会）	対応方針
4	展示構成・ゾーニング（案）について	<ul style="list-style-type: none"> ・「みえつ空中散歩」をなくした場合の3階の動線がどうなるかもきちんと考えた方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3階への動線については、コンテンツ等を整理し、再検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3階の動線は、「東側テラス（北側解説パネル→南側解説パネル）⇒西側テラス（解説パネル）⇒室内（遺跡のモニタリング情報、休憩、ライブラリー、ミュージアムショップ）」を基本的なものとして整理した。
5		<ul style="list-style-type: none"> ・3階に来訪者をどうやって上げるかというのは、以前からの課題。 ・ミュージアムショップが魅力的であることも非常に重要で、ここでしか買えないものがあれば人は来る。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムショップについては、運営方法も含め調整を図っていく。
6		<ul style="list-style-type: none"> ・3階の「ライブラリー」はソファがゆったりとしているのに比べ、「まち歩き案内」のスペースが少ないように感じる。 ・3階に上がってきた人はここで学習するというよりは、次はどこへ行こうと期待を膨らませられるよう、休憩や周遊情報のコーナーのスペースを充実させておいた方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まち歩き案内」のモニターを見たり、ゆっくり休憩できる場として丸テーブルとイスの配置を考えている。 ・ここでは地元ボランティアの方々による湯茶接待も考えており、ここから周遊・観光につながればと考えている。 	—

No.	項目	意見	事務局の回答（第1回委員会）	対応方針
7	展示構成・ゾーニング（案）について	<ul style="list-style-type: none"> ・「三重津海軍所跡の概要」のパネルを読んだ後に、その奥にある「三重津海軍所跡のフルヒストリーと時代背景」に進んでくれるだろうか。 ・「三重津海軍所跡の概要」、「三重津海軍所跡のフルヒストリーと時代背景」、「海軍所整備の変遷」で示されている資料カード（案）には、資料の重複がかなり見られる。「三重津海軍所跡の概要」と「三重津海軍所跡のフルヒストリーと時代背景」については、パネルの統合を考えてみてもよいかも知れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示資料カード（案）で示した資料の重複について、グラフィックパネルと映像の違いはあるが、解説項目の重複もあるので、さらに精査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解説項目の重複等について精査し、展示構成の再整理を行った。
8		<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者はこちらが思うようには動いてくれない。順番に見なくても、全体で理解してもらえればよいのではないか。 		

No.	項目	意見	事務局の回答（第1回委員会）	対応方針
9	展示演出（案） について	<ul style="list-style-type: none"> ・原寸のドライドック模型と大型スクリーンの映像の関係、紹介された映像の実現は難しいと思って見ている。 ・ドライドックの渠底の中心と大型スクリーンの中心が合わないので、電流丸がスクリーン映像の中心に見えることはない。また、模型を補完する演出はあってもいいと思うが、歴史的な背景の説明は大型スクリーンでは必須ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演出方法の一つの例としてご紹介させていただきました。 ・いただいたご意見を踏まえ、今後作業部会等で検討を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三重津海軍所跡の整備のコンセプトは、「屋内展示」と「屋外展示」を一体的に整備する「一体展示」を通じて、現地で直接見ることができないものの概要・価値を伝えることと考えている。 原寸大のドライドック模型と大型スクリーン映像を通じて、発掘調査で検出された状況やドライドックの運用方法等をしっかりと伝えていきたいと考えている。 ・正確さと演出のバランスについては、「デジタル映像制作にあたっての基本的な考え方」を整理し、精査を進めていく。 ・映像の大まかな構成からは、歴史的背景は削除し、再検討を行った。
10		<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景は、大型スクリーン映像に必要ない。 ・近代化の歴史的背景は、展示室のあちらこちらで出てきている。各展示エリアの役割をもっと整理した方が良さそう。 ・ドライドックの運用の理解の補助になるような映像を主とした方がよい。 		
11		<ul style="list-style-type: none"> ・何を強調すべきかを考えた方がよい。地盤の軟弱さを理解し、江戸時代からある在来技術で西洋式のドライドックを造り上げたすごさを感じることができるのが三重津のドライドックだと思う。 		

No.	項目	意見	事務局の回答（第1回委員会）	対応方針
12	展示演出（案） について	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境的な前提、技術的な前提を解説した方が良さそう。この地にドライドックを造るのが技術的にどんなに大変なのかを説明した後にドライドックの機能の説明に移るとか。 ・正確さと演出のバランスが難しいところではあるが、来訪者に洋式船が入ってくるようなシーンはできれば大型スクリーンで見せたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演出方法の一つの例としてご紹介させていただきました。 ・いただいたご意見を踏まえ、今後作業部会等で検討を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三重津海軍所跡の整備のコンセプトは、「屋内展示」と「屋外展示」を一体的に整備する「一体展示」を通じて、現地で直接見ることができないものの概要・価値を伝えることと考えている。 原寸大のドライドック模型と大型スクリーン映像を通じて、発掘調査で検出された状況やドライドックの運用方法等をしっかりと伝えていきたいと考えている。
13		<ul style="list-style-type: none"> ・この場所は、入口からトンネルを抜けた後の最初のイントロダクションとなる部分。ワクワク感やスケール感など、感覚や感情に訴える役割が、この大型スクリーン映像とドライドックの原寸模型の展示にはあるのではないかと思う。照明による演出なども考えられているので、いいなと感じた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・正確さと演出のバランスについては、「デジタル映像制作にあたっての基本的な考え方」を整理し、精査を進めていく。 ・映像の大まかな構成からは、歴史的背景は削除し、再検討を行った。
14		<ul style="list-style-type: none"> ・ここの展示は入った瞬間のインパクトが勝負になる。 		
15		<ul style="list-style-type: none"> ・ドライドック模型の後ろの壁も忘れないでほしい。あえて演出的なことは何もせずに、ドライドック模型に注目させるのも一つの方法。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライドック模型の後ろの壁は、来訪者の視線が模型に集中するようにシンプルな背面処理とする。

No.	項目	意見	事務局の回答（第1回委員会）	対応方針
17	三重津海軍所跡のモニタリングについて	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回も引き上げる必要があるのか。理想としては、リアルタイムで状況を認識できるようにしておいた方がよい。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では、三重津海軍所跡の地下水位や酸化還元電位の状況について、基準となる数値を持ち合わせていない状況。 ・まずは、データの蓄積を行うことから始め、その後データの解析を行い、基準となる数値を定めることで、三重津海軍所跡にとって最適なモニタリング方法を確立させていきたい。
18		<ul style="list-style-type: none"> ・この案だと何らかの環境変化の兆候が見られたとしても、月1回しか確認できない。 	—	
19		<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス展示での活用を考えるなら、リアルタイムで数値が分かった方がよいのではないか。 ・遺跡周辺の地下水に何が溶けているか、塩分濃度なども一度確認しておいた方がよい。 	—	
20		<ul style="list-style-type: none"> ・展示での活用は、「今こういう数値が出ているが、これはこういう状況を指す、だからしっかりと遺跡が保存されていることが分かります。」という流れで説明した方が来場者にはインパクトがあると思う。 	—	
21		<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと遺跡を保護しているということも伝えることができる。 	—	